

社会福祉法人 清陽会 令和4年度 事業報告

令和4年度を振り返って

●新型コロナウイルス感染症への対応

令和元年度末から感染拡大が顕著となった新型コロナウイルス感染症については、令和4年度になってからも収束の兆しが見えず、オミクロン株による第8波が襲来するなど年度を通して猛威を振るったため、令和3年度に引き続き、法人・施設運営に様々な影響を及ぼした。

このコロナ禍にあって、利用者の健康を守ることを第一に施設運営を行った。具体的には、令和2年5月に作成した「新型コロナウイルス感染症対処計画」に基づき情報共有を徹底するとともに、感染者等が確認された場合の業務維持体制等について検討を深めた。

また、一時的に新規感染が落ち着きを見せた令和3年11月末に、ご家族等の対面による面会を一時再開しましたが、オミクロン株による感染拡大によりスマートフォンやタブレットを活用したオンラインや窓越面会に戻している状況である。

新型コロナウイルス感染症施設内で発生しないよう、これまで同様、職員に対して、様々な機会を捉えて基本的な感染防止対策(手洗い、マスク着用、消毒、人混みを避ける等)の徹底を指示してきた。

また、入所者及び職員に対するワクチンについては、菊陽町から高齢者施設に対して早期接種の配慮をいただいたことから、6月下旬から7月上旬、12月にはオミクロン対応ワクチンによる接種することができた。

更に職員に対して週に1回の抗原定性検査を実施した。

高齢者や基礎疾患を有する者は重症化の危険性が高いため、今後も引き続き、職員一丸となって感染防止対策に取り組む。

●法人・施設の経営等

○法人の基本理念(利用者第一)

施設運営にあたっては、①人権の尊重、②高品質なサービスの提供、③快適な生活・ケア環境の向上、④地域に開かれた施設づくりの4つの基本理念を掲げ、利用者第一として取り組んだ。

特に、利用者の自己決定と選択を尊重し、利用者の尊厳に配慮した良質かつ安心・安全なサービスの提供や、常に利用者の立場に立って高齢者のニーズを正しく把握し、適切な福祉サービスの提供に努めた。

○健全・安定運営と事業継続の取組

経営組織のガバナンス強化について、社会福祉法人制度改革の趣旨に沿って、社会福祉法人に期待される評議員会、理事会及び監事の機能と役割を果たし、併せて、情報公開や社会貢献活動に取り組むこと等により、公正かつ透明性の高い社会福祉法人経営に努めた。

○介護・老人福祉サービス推進

嘱託医や医療機関との連携及び利用者介護度の重度化傾向を見据え、介護・看護体制の充実強化のため技術向上に努め、4つの自立支援(認知症ケア、看取りケア、リハビリテーション、口腔ケア)の実践に努めた。

更に、コロナ禍にあっても、利用者に喜んでいただけるよう施設内関係者だけで季節行事(お祭り、どんどこや等)を実施したほか、気候の良い時期は、苑庭での花見等を実施した。

併せて、塗り絵やゲーム、算数計算等を実施するなど、レクリエーションの充実にも努めた。

○施設の整備、改修等

きほう苑については、中期的視点に立った施設整備の基本的な考え方について、引き続き検討した。

○地域との連携・協力

新型コロナウイルスの感染拡大により、これまで実施してきた地元小中学校のワークキャンプや職場体験、研修等の受け入れはできなかったものの、熊本学園大学の実習生受け入れは行った。

○福祉人材の確保・育成

本県の介護人材については、依然として不足している状況にあり、当法人においても、人員配置基準は満たしているものの、働き方改革による「有給休暇5日取得の義務化」等も加わり、施設の適正かつ安定した運営のためには、人材の確保は大きな課題であるため、給与等の処遇改善等を行い、人材の確

保に努めた。

令和5年6月5日

社会福祉法人 清陽会
理事長 永井 正幸

きほう苑 信条

1. 明るい笑顔と、優しい気持ちを持ち、お年寄りの尊厳を大切にします。
1. 豊かな心といたわりの気持ち、愛情を込めた仕事でより良い介護サービスに努めます。
1. 高齢者が大好きなので、優しい心と思いやりの気持ちで接します。
1. 心のこもった挨拶と常に勉強する向上心を持ち続けます。
1. 「明るい笑顔で」「温かい言葉を」をモットーにします。

1 法人運営について 評議員会、理事会及び監査等の開催について

開催月日		提出議案等
令和4年 5月26日	監事 監査	
令和4年 6月7日	第1回 理事会	議案第1号 令和3年度 事業報告について 議案第2号 令和3年度 会計決算報告について 議案第3号 令和4年度 定時評議員会の日時及び議案等の決定について 報告事項 理事長専決による予算の流用について 社会福祉充計画の実施状況について 施設整備検討に係る業務委託結果報告について 理事長の職務状況報告について
令和4年 6月22日	定時 評議員会	議案第1号 令和3年度 事業報告について 議案第2号 令和3年度 会計決算報告について 報告事項 理事長専決による予算の流用について 社会福祉充計画の実施状況について 施設整備検討に係る業務委託結果報告について 理事長の職務状況報告について
令和4年 11月8日	監事 監査	
令和5年 3月16日	第2回 理事会	議案第1号 令和4年度 補正予算(第1号)について 議案第2号 令和5年度 事業計画(案)について 議案第3号 令和5年度 当初予算(案)について 議案第4号 規程等の改正について 議案第5号 令和4年度 第1回臨時評議員会の日時及び議案等の決定について 報告事項 理事長の職務執行状況について
令和5年 3月27日	第1回 臨時 評議員会	議案第1号 令和4年度 補正予算(第1号)について 議案第2号 令和5年度 事業計画(案)について 議案第3号 令和5年度 当初予算(案)について 議案第4号 令和5年度 役員の報酬総額について 報告事項 理事長の職務執行状況について

2 部門ごとの令和4年度の目標に対する検証

(1) 特別養護老人ホーム きほう苑 生活相談員・介護支援専門員門

○ 令和4年度の目標：生活相談員「利用者の尊厳を保持した自立支援とサービス提供」

利用者の方が少しでも長く、自立した施設生活を継続するために、相応しい対応を他職種で検討し、その連携の強化に努める。

特別養護老人ホームとして地域に活用され必要な方に利用され続ける施設を目指し、入退所を円滑に調整することで、ベッド稼働率97%を目指す。

利用前の個別カンファレンスを開催することで、利用者や家族の意向に沿ったサービス提供が出来、他の利用者の意向等の聞き取りは十分ではないが、個々に意向を他職種と連携して確認し実行してきた。

○ 令和4年度の目標：介護支援専門員 「その方らしい生活、利用者本意の支援」

近年は、新型コロナウイルス感染防止のため、担当者会議には家族の出席は依頼できなかったものの、その都度、状況報告を行っている。また、身体機能が低下された利用者家族には、来苑いただき、嘱託医師より説明いただいた。

施設で生活される中で、「その人らしい生活」の実現のために、利用者や家族等の意向を大切にしながら、ケアサービスが適切にかつ効果的に提供されるようケアマネジメントの流れに沿い、多職種共同でサービス計画書作成を行い、利用者本位の支援を行う。

令和3年に引き続き、各職種チームとなり利用者をマネジメントしていく体制が出来ており、身体的、精神的安定が長期に継続できるように努めたため、入院者、救急搬送者の減少にも繋がった。

～ 相談・支援部門 1年間の振り返り ～

入所相談の時点で、施設の特徴や利点を丁寧に説明したため、入所申込者は、徐々に増えつつあるものの新規受入については、入所申込者後の調査が出来なかったこともあり、限られた方みの新規入所になった。今後、さらに入所申込者を増やすために、再度、関係機関との関係を構築・強化したい。また、コロナの影響で、面会の方法やボランティアの受け入れに関しても、今後こういったやり方があるのか、施設内外で再構築し、利用者のためにつながる最適な方法を実現したい。

(2) 特別養護老人ホーム きほう苑 介護部門

○ 令和4年度の目標 「チームケアで利用者のその人らしい生活を支える」

他部署からの協力により、利用者様の日々のケアを提供することが出来ている。

令和3年度を踏まえ、その連携を維持し、よりよい介護サービスの提供のための考えを共有していきたい。

職員体制による利用者様へのケアが慌ただしくならないよう業務を見直しを行い、それでも職員のコロナ感染、濃厚接触により入浴の中止等もあったが、利用者様への感染もなく、生活訓練、行事实施に努めた。

1月より新任職員を迎え、職員の勤務体制の緩和も実施出来、指導業務に合わせて利用者様へのケアの充実にも努めた。

～ 介護部門 1年間の振り返り ～

少しずつだが利用者様の対応に余裕が持てるようになり、今後出来るだけ早く利用者様のより満足いくケアに取り組んでいきたい。

(3) 特別養護老人ホーム きほう苑 看護部門

○ 令和4年度の目標 「利用者の、その人らしい生活を支える」

利用者の健康維持のため、責任ある看護・介護のサービスを提供する。

他部署と協働し、質の高いケアを心がけた。

コロナ禍で数少ない情報で閉ざされた社会にならないよう対応した。

～ 看護部門 1年間の振り返り ～

職員の定着が安定せず、十分な体制で取り組むことが出来なかった。

多職種とも協働しながら健康維持や今後の終活に向けた支援に取り組みたい。

(4) 通所介護事業所 きほう苑

○ 令和4年度の目標 「笑顔で楽しく続ける介護予防」

利用者の在宅生活の維持継続を支援する為に、要介護状態の改善を図ることができるよう介護予防の取り組みを実施していきたい

利用者の在宅生活の維持継続を支援する為に、機械を使った機能訓練の実施や訓練指導員を中心に健康体操などを職員で実施してきました。個別の計画に沿って訓練や体操をご利用時に継続実施することができました。訓練指導員やPTと連携し、職員の工夫で楽しいレクを通して介護予防につながるようなサービスを提供しました。利用者家族の身体的、精神的負担の軽減については、送迎時やサービス担当者会議の際に、ご自宅での介護方法や在宅介護についての相談受付、各種介護サービスの案内調整などを行いました。

～ 通所介護事業所 1年間の振り返り ～

部署目標として「笑顔で楽しく続ける介護予防」を実現する為に毎月部署会議を実施しながら取り組んできました。

日々、感染対策は実施していたが、年末は職員と利用者が複数名新型コロナウイルスに感染し、休業することもあり、ご利用者や関係機関へご心配をおかけすることとなった。

毎月の行事については、感染対策の為、昨年度に続きご利用者の楽しみにしている買い物外出やボランティアの施設訪問などは中止し、花見ドライブ外出や施設内で楽しめる行事を企画し実行してきました。年度末は、ご利用者の体調不良や自宅での転倒などから、複数回ご利用されていた方の入院が多くみられ、年間稼働率の低下に繋がりました。

利用者アンケートの結果から、昨年度よりも「満足している」の数値が低下し「ほぼ満足している」の数値が上昇している件について、次年度は改善できるよう具体的な対策を部署の職員と検討し実行していきたいと思います。

(5) 居宅介護支援事業所 きほう苑

○ 令和4年度の目標 「在宅生活が円滑に送れるよう丁寧かつ迅速に対応する。」

毎年の自然災害や一昨年より社会問題となっている感染症など不測の状況下にあっても、高齢者がご自宅で安心して暮らせるように、各サービス事業所・病院・家族・地域などとの連携を強化し、高齢者がこれまでの生活に戻れるように支援していきたい。

菊陽町だけでなく、熊本市、合志市、大津町からの依頼があり、住み慣れた自宅で生活できるような支援ができた。同法人の介護サービスへの紹介は昨年より少なかったものでこれまで以上に行っていく。入所に関しては新規で3人入所できたので、今後もすべて早めに声掛けし当苑への申込書を提出する。

～ 居宅介護支援事業所 1年間の振り返り ～

今年度もコロナの影響が大きく、定期訪問や営業活動の自粛等により思うように介護支援専門員ができなかった。特に入院者の状況確認ができず、電話のみのやり取りとなったのは寂しかった。今後少しでもコロナの影響が少なくなれば目の前の利用者に対して家族も含め話し合いながら支援できるように常に意識して業務を行いたい。

(6) 地域密着型特別養護老人ホーム きほう苑きらら 生活相談員・介護支援専門員門

○ 令和4年度の目標：生活相談員・介護支援専門員

「その人らしさの暮らしを支えるための支援方法を多職種で取り組む。」

利用者のその人らしい生活支援を行うことを令和3年度の目標としていた。令和4年度も引き続き、要介護度別、疾患別、ADL別に利用者を捉えるのではなく、利用者のその人らしさに焦点を当て、生活上の課題克服に向けて、多職種で連携しながらナラティブアプローチを図り、ケアやサービスの向上を目指す。

年度後半にケアマネが1名増員。利用者本人の過去・現在（ナラティブ）を大事に受け止め、他部署と連携しながら、利用者のその人らしい生活支援に結びつくように心がけた。

～ 生活相談員・介護支援専門員門 1年間の振り返り ～

今後も、取組事項の実績を重ねながら、多職種の視点で、利用者の生活上の課題点を捉え、支援にあたっていく。

また、支援計画書及び24時間シートに個別性が明記できるように、次年度もナラティブアプローチを重要視して継続課題としていく。

(7) 地域密着型特別養護老人ホーム きほう苑きらら 介護部門

○ 令和4年度の目標「利用者一人ひとりがその人らしく生活が送れる様に支援する」

利用者一人一人のプライバシーや尊厳を大切に、利用者が快適に生活できる環境作りと、今までの暮らしを可能な限り継続していく為に、職員一人一人がユニット職員としての自覚を持ち一丸となった支援を行う

利用者のプライバシーや尊厳を考えケアを行い環境作りに努めてきたが、コロナ禍で家族への聞き取り等、利用者の生活歴を理解することが難しく今までの暮らしの継続には至っていない。今後もユニット職員としての自覚を持ち支援を継続していきたい。

～ 介護部門 1年間の振り返り ～

職員が利用者一人ひとりの事を考え理解し、ユニットで話し合う事で「その人らしく」に少しでも近づける様に努力してきた。職員の限られた人数で業務に迫る事も多く「いつも笑顔」までは難しかった。

これからも笑顔で対応し、自然と利用者も笑顔になれる。笑顔が溢れる施設を目指して全員で頑張っていきたい。

(8) 地域密着型特別養護老人ホーム きほう苑きらら 看護部門

○ 令和4年度の目標 「健康管理ケアの充実と感染症予防対策の強化」

利用者の高齢化・重度化に伴い、医療ニーズが高まる傾向にあり、日常的な健康管理ケアの充実・利用者一人ひとりに応じたケアの質の向上が求められてる。長期にわたり新型コロナウイルス感染症の猛威に晒され、施設全体・職員それぞれが感染症対策の強化を図り、利用者の安心・安全な生活環境を守る。

常に利用者の状態観察を行い、嘱託医との連携を図りながら、異常の早期発見・早期対応で重症化を防ぐことができたと考える。

看取りに対しては、適宜カンファレンスを実施し、利用者および家族と、より良い関わりが出来るように努めた。

～ 看護部門 1年間の振り返り ～

3年にわたり長期コロナ禍が続き、気を引き締めて感染予防に取り組んだ。窓越し面会やオンラインではあったが、感染予防対策を徹底し、利用者が家族との貴重な時間を設けることができた。日常のケア・観察が異常の早期発見に繋がった。

(9) 地域密着型特別養護老人ホーム きほう苑きらら 機能訓練部門

○ 令和4年度の目標 「自己決定を尊重し、基本動作能力を活用した援助に努める」

加齢とともに倦怠感、意欲低下、筋力・体幹低下が進行していく中で、利用者の心身の状況に応じて無理をせず安心安全に心身機能・残存機能維持向上を図り、基本動作能力を活用し自立に繋がる援助を行う。

前年度に引き続き、計画書に基づく支援を利用者の状態を把握した上で声掛けを行い、コミュニケーション図りながら訓練を実施できた。

～ 機能訓練部門 1年間の振り返り ～

個別リハビリテーション計画に基づき、お一人おひとりに合わせた訓練を実施。訓練中は声かけやコミュニケーションを密に図りながら、利用者様の訓練意欲を向上させ、残存機能・潜在機能を引き出しているが、利用者様の加齢にともなう筋力低下、拘縮の進行、褥瘡や表皮剥離の発生等の事例が増えているため、より他職種と連携・情報共有しながら、訓練の実施に当たっていく。

(10) 厨房部門

○ 令和4年度の目標 「利用者が健康で豊かな食生活が送れるよう支援する」

食べることは、利用者にとっての楽しみや生きがいになる。

健康面に配慮した、安全でおいしい食事を提供することで、「口から食べる」ことを楽しんでいただき、その人らしく健康に生きていくことを支える。

安全な食事を基本に、嚥下調整食を含め利用者一人一人に適した形態での食事提供を行った。また、食べやすい食器や安全な姿勢および介助法などの食事環境を整えることに努めた。

結果として、令和4年度の誤嚥性肺炎の発生は、きほう苑5件、きらら0件となり、経口から経管へ移行された方はきほう苑2名、きらら1名であった。

～ 厨房部門 1年間の振り返り ～

給食業務を委託してから2年目を迎え、施設側と委託側の連携がスムーズに図れるようになっていく。

食事内容への要望や細かい個人対応についても理解し対応することができ、安全な食事提供につながっている。これからも安全で、利用者の笑顔につながる食の提供に努めていきたい。

(11) 事務部門

○ 令和4年度の目標 「他部署との連携を図り円滑な業務遂行に努める」

各部署との連携を図り、多職種から多くの意見を取り入れることが出来るよう、月1回の主任会を実施し、各部署から毎月の議題を提案してもらい、その議題について検討するなど、意見交換の場を多く設ける。

また、お互いが円滑に業務を遂行できるように努め、働きやすい環境作りを行う。

令和３年度に引き続き、毎月１回主任会を行うように心掛けてきたが、後期は職員不足により長く会議に時間を割くことが難しい部署もあり、主任が揃わないことから未実施月が多くなっていた。

働きやすい環境作りの観点からは、令和３年度から変わらずストレスチェックの結果において、疲弊度が高いとの診断を受けているため、職員の充足を早急に図るほか、「働きやすい職場」について多角的に検討し、来年度に引き続き環境整備を行っていきたいと考えている。

～ 事務部門 １年間の振り返り ～

昨年度に引き続いた目標を設定したが、大きな変化は見られていない。

しかし、施設が安定した運営を行うためには不可欠な目標だと思っており、来年度も継続して目標達成に向け努力したいと考えている。

３ 行事・地域交流 等

利用者が楽しくいきいき過ごせるように、季節を感じられる飾りつけや行事を行い、行事を通して施設生活の充実を図るための行事を予定していたが、コロナ禍において大規模な行事は実施できなかったが、利用に楽しんでいただけるよう工夫し実施した。

① 施設管理・運営

月	施設管理・運営
6	新型コロナワクチン接種４回目（60歳以上及び基礎疾患を有する者のみ）
8	職員特定業務健康診断
11	入所者健康診断、入所者インフルエンザ予防接種
12	職員インフルエンザ予防接種、新型コロナワクチン接種オミクロン株対応
2	職員定期健康診断
3	職員ストレスチェック
毎月	運営経営委員会

② きほう苑 実施行事

月	施設行事
4	花まつり
5	新茶会、母の日、菖蒲湯
6	消防設備点検 父の日
7	七夕、法話
8	縁日
9	敬老祝賀会
10	防災訓練 お月見会
11	ハロウィン
12	消防設備総合点検 クリスマス会、餅つき
1	新年祝賀会、どんどや
2	節分、バレンタインデー
3	ひな祭り
毎月	誕生会 映画上映会

③ きほう苑デイサービス 実施行事

月	入所施設合同行事	個別少人数外出 訓練など	個別少人数趣味活動	集団レクリエーション
4	開園記念 花祭り	桜見学ドライブ 春の見学ドライブ (旭志、菜の花) つつじ見学ドライブ	手づくりおやつ(あんこオムレット) 絵手紙作り 季節のカレンダー作り	ペットボトルおじゃめゲーム きらきら輪投げゲーム 坂道おじゃめゲーム サイコロゲーム 魚釣りゲーム 紙芝居 ぐらぐらゲーム
5	八十八夜 新茶会 しょうぶ湯 母の日カーネーション飾り		手づくりおやつ(お好み焼き) 趣味活動(鯉のぼり作り) 折り紙(鶴作り) 家族への絵手紙作り、封筒作り	塗り絵 回想TV鑑賞 穴空きおじゃめ 風船バレー 絵合わせゲーム
6	父の日バラ飾り 梅雨のビンゴ大会 紙芝居		手づくりおやつ(水無月) 趣味活動(七夕短冊作り、あじさい作り)	おじゃめ乗せゲーム ポケネット風船 ボーリングゲーム ポケネットゲーム

	じゃんけん大会		季節のカレンダー作り ゴミ箱作り	サイコロゲーム チーム戦
7	七夕飾り 抹茶会		手づくりおやつ(いきなり団子) 七夕飾り 趣味活動(季節のカレンダー作り、金魚のうちわ作り、牛乳パックペンたて作り、しおり作り)	サイコロ計算ゲーム ビンゴゲーム じゃんけん大会 数字消しサイコロゲーム 玉入れゲーム
8	法話の日 施設内夏祭り 利用者ビンゴ大会		手づくりおやつ(アイスクリーム) ダイヤモンドゲーム	グランドゴルフゲーム カーリングゲーム ペタペタゲーム
9	敬老会	コスモス見学ドライブ	手づくりおやつ(白玉きなこ団子) 趣味活動(ハロウィン小物、季節のカレンダー作り、コスモス飾り作り)	旗倒しゲーム トランプ ぺったんこゲーム おじゃめサイコロゲーム ボール渡しゲーム
10	お月見会	コスモス見学ドライブ	手づくりおやつ(月見ドーナツ) 趣味活動(季節のカレンダー作り)	紅白ボール渡しゲーム サイコロビンゴゲーム サイコロカーリングゲーム
11	利用者ビンゴ大会 焼いも作ろう会	紅葉見学ドライブ	趣味活動(季節のカレンダー作り)	サイコロおじゃめ乗せゲーム 倍数輪投げゲーム
12	デイ利用者忘年会		趣味活動(門松作り、干支のキーホルダー作り)	段おじゃめ乗せ すごろく熊本弁ゲーム
1	七草粥、どんどこや 鏡開き、新年初湯会 ゆず湯	初詣	趣味活動(節のカレンダー作り) 手作りおやつ(ホットケーキ&カフェ)	ブロックおじゃめ ペットボトル渡しゲーム
2	節分豆まき バレンタインデー		趣味活動(チューリップ作り) (ひな人形作り) 手作りおやつ(バレンタインすずカステラ)	
3	ひな祭り会	桜見ドライブ	趣味活動(お花ガーベラ作り、ちぎり絵作り、かざり車作り、季節のカレンダー作り) 手づくりおやつ(いももち)	
毎日	・脳トレ、各種レクリエーション・入浴・カラオケ・訓練指導員による個別機能訓練・昼食前の口腔体操			
毎月	・お誕生会・利用者様と一緒に手作りおやつ・理学療法士による機能訓練計画及び評価 ・(散髪) 理容の日(第3月・火)・毎月26日 温泉の日(入浴剤を使用)			

④ きほう苑きらら 実施行事

月		施設行事
4	運営推進会議、消防設備点検	さくらコンサート、花まつり、五月人形飾り付け
5		新茶会、菖蒲湯、カーネーション飾り付け、母の日コンサート
6	運営推進会議 防災訓練・避難緩降機取扱講習	おやつ作りレク(柏餅)、あじさい飾り付け、調理レク(紫蘇ジュース)
7		七夕飾り付け、七夕コンサート
8	運営推進会議(中止) 防災訓練・救急法講習	
9	自家発電機点検	敬老祝賀会、敬老コンサート、利用者縁日(映画、鈴カステラ、富くじ)
10	運営推進会議、消防設備点検	花見ドライブ(コスモス)、紅葉コンサート
11		芋掘り
12	運営推進会議(中止)	焼き芋、ゆず湯、クリスマス会、餅つき(中止)
1		初詣(苑内きらら神社)、どんどこや、新春コンサート
2	運営推進会議	節分イベント、ひな人形飾り付け
3	自家発電機点検	ひな祭りイベント、花見ドライブ(桜)
毎月	お便り便発送	誕生会

⑤ 給食特別献立

月	給食特別献立
4	春の行事食、花まつり(甘茶)

5	新茶会(おまんじゅう)、こどもの日行事食、手作りおやつ
6	夏至行事食
7	七夕行事食、デイ抹茶会
8	苑縁日
9	敬老会祝膳、きらら縁日
10	ハロウィン行事食
11	七五三行事食、手作りおやつ
12	クリスマス行事食
1	おせち料理、七草がゆ、鏡開き(ぜんざい)
2	節分行事食、手作りおやつ
3	ひな祭り行事食、手作りおやつ

4 委員会活動

(1) 栄養管理委員会（給食、摂食嚥下）

栄養に係る課題を多職種で協議し、入所者の栄養状態の維持・改善に努める。また、摂食・嚥下障害に対し、適切なケアの実施や安全な食事環境の提供を行い、入所者の「食べる力」を支援することを目標に令和4年度は取り組んだ。

～ 栄養管理委員会 1年間のまとめ ～

委員会の今年度の取り組み事項の一つとして、オリゴ糖を用いた排便コントロールの改善に取り組んだ。

栄養管理については、多職種協働でケアにあたり栄養状態の維持・改善に努めた。

これからも利用者のより穏やかな生活の支援に努めていきたい。

(2) 保健衛生委員会（感染症対策、褥瘡予防、たん吸引、終末期ケア）

① 感染症対策について

法人の「感染症・食中毒の予防及びまん延防止のための指針」により活動した。

感染予防は、一人でも手を抜いたら破綻する。

今後も、毎日の環境整備、うがい、手洗い、マスクの着用など、標準予防策を徹底し、「持ち込まない・持ち出さない・拡げない」を合言葉に、全職員で取りくんでいく。

② 褥瘡予防について

利用者に対し良質なサービスを提供する取り組みのひとつとして、褥瘡が発生しないような適切なケアに努めるとともに、その発生を防止するための体制を整備するとともに、褥瘡に関する基礎的知識を持ち、日常的なケアにおいて褥瘡発生の予防について取り組んだ。

③ 口腔ケアについて

法人でも、夜間における安全安心な生活を送っていただけるように、「喀痰吸引」等資格取得の研修受講を率先している。令和4年度は、新たに1人の資格取得者が誕生した。

④ 看取りについて

今年度の利用契約終了者は11名(きほう苑7名、きほう苑きらら4名)であった。

看取らせていただいた方は5人、病院で亡くなられた方は5人、療養退去された方が3人であった。

～ 保健衛生委員会 1年間のまとめ ～

新型コロナ禍において、特に感染予防としての標準予防対策の実施を行った。褥瘡予防、終末期ケア（看取り）、喀痰吸引についても、毎月の委員会での振り返りにて検討・評価し、今後の業務や委員会活動に活かすことができた。

(3) 排泄委員会

排泄は、水分・食事・運動など日々の生活と密接に係わっているため、多職種との連携を行い、利用者が快適に安心して生活していただけるよう、一人ひとりに適した、よりよい排泄ケア、尊厳を損なわない支援に日々取り組むことを目標にし、令和4年度は実施した。

～ 排泄委員会 きらら 1年間のまとめ ～

令和3年度に比べると事業計画に挙げている取組みは、概ね実行できたといえる。実施にいたらなかった部分については、次年度の排泄委員会で継続協議していきたい。

(4) 共育(共に育つ) 合同委員会 (研修、認知症、ICT)

・内部研修については、事故防止・虐待・身体拘束・感染症・看取り研修等、事業所毎に必須となる研修を実施するとともに法人や事業所のニーズに合わせた研修を実施する。また、外部研修については、職場の立場や役割に応じた多様なスキルや知識を身に付けられることを目標とし、事業所毎に、研修内容の吟味、最適な人選をしたうえで外部研修に参加する。特に認知症研修については、医療・福祉関係の資格を有さない職員に対し認知症介護基礎研修を受講してもらうとともに、実務者研修や実践リーダー研修を計画的に受講する。

・ICTについては、各部署同じ介護システムを導入したことにより情報の共有化やシステムの構築を目指す。併せて見守り機器の計画的な導入を検討する。

～ 共育 合同委員会 1年間のまとめ ～

新型コロナ感染対策の為、計画した研修(対面やグループワーク等)が実施できなかったが、年度間において実施すべき必要な研修については、資料配布およびレポート提出等の代替にて対応した。外部研修は殆どがリモートでの参加になった。令和5年度も他委員会と協力し有意義な研修を行いたい。

ICTについては両施設で話し合い、有効に活用方法について、意見交換やすり合わせができるようになっている。5年度は更に業務の効率化ができるように考えていきたい。

(5) リスク管理委員会

令和4年度より介護事故をインシデントとアクシデントに細分化し分析・対策の強化を図っています。

～ リスク管理委員会 きほう苑 1年間のまとめ ～

インシデント・アクシデントの統一の作成を行い、4年度から活用している。活用する事で3年度よりアクシデントすることが出来た。事故に対する対策の徹底で4年度は薬の取り違い事故は0件にすることができヒヤリハットにて誤薬は防げている。

ヒヤリハットについては、今後も提出してもらい、発生時間や発生場所等を特定し事故を未然に防ぐよう活用したい。

～ リスク管理委員会 きらら 1年間のまとめ ～

令和4年度では前年比51%減少と大幅に介護事故を防ぐ事ができた。集計・分析・対策立案と委員以外へも可視化し周知する事で職員全体でのリスクマネジメントの意識向上が図れた事が一番の要因だと思う。ヒヤリハット報告が増える事で事故発生が減少する事もデータで立証されているので、5年度でのヒヤリハット報告の更なる増加を促していきたい。

(6) 苦情解決委員会

当法人では、利用者からの苦情に対して社会福祉法第82条を踏まえて適切な対応を行うことにより、法人事業の利用者の権利を擁護し、事業の迅速な改善を図るとともに、法人事業に対する社会的な信頼を向上させると共に、事業所毎に安全で快適な苑生活を過ごすことが出来ることを目的に、利用者一人ひとりの生活リズムに合った介護支援に努める。

そのためには、本人・家族の意向・苦情は真摯に受け止め、早急に解決する方法を見つけ実施することを目標に、各事業所で取り組んだ。

～ 苦情解決委員会 きほう苑 1年間のまとめ ～

ここ数年苦情としては報告がないものの、家族が言いづらい面もあるかと思われる。

毎年家族にアンケート結果の報告を行った上で、担当者会議や面会等にも出来る限り活用して、家族が安心されるよう努めたい。

～ 苦情解決委員会 きらら 1年間のまとめ ～

入居者家族へのアンケート調査では、前年度に引き続き回答率が上がり、89.3%となった。新型コロナに関する項目があったため、家族も関心が高かったものと受け止めている。ただし、相対的に『大変良い』の意見が減少しており、ここ数年間におよぶ面会制限や施設側からの情報発信不足によるものと受け止めている。今後も、多職種で家族側とのコミュニケーションの機会を意図的に設けながら、意向や意見をいただく機会を増やし、サービス向上、接遇改善に向けた取組みに当たっていく。

(7) 入所判定委員会

法人の入所(入居)に係る取扱いを明確化し、各施設において共通化することにより、入所(入居)決定過程の公平性及び透明性を確保し、入所(入居)の必要性が高い者の円滑な入所を促進することを目的として、入所(入居)取扱い指針により入所(入居)判定委員会を開催した。

～ 入所判定委員会 きほう苑 1年間のまとめ ～

入所相談や申込受付は、できる限り実施できたが、限られた時間で行っているため、最低限度の実施にとどまった。次年度は、調査に関して、他部署と協力・連携して実施したい。

～ 入所判定委員会 きらら 1年間のまとめ ～

入所申込者件数は横ばい状態(30件弱)が続いており、また、町内の他地域密着型特養と申込が重複しており、入所案内の時期が重なる事例が数例あった。申込み数の増加を図らなければならず、病院連携室、老健、居宅等への入所案内を引き続き行っていく。

(8) 防災交通・環境美化委員会

① 防災対策について

令和4年度は、法人における防災管理業務について必要な事項を定め、火災・地震・その他の災害の予防及び利用者の生命の安全並びに被害の防止を図ることを目的とする。尚、委員会は基本的に毎月開催し、災害発生時や台風等の接近が予想される場合は、緊急での開催を行う。

また、今年度は業務継続に向けた研修の実施及び訓練(シミュレーション)及び非常災害対策として、訓練には地域住民の参加が得られるよう連携に努めることを目標に掲げたがコロナの関係でかなわなかった。

② 交通安全について

4月6日から15日の春の交通安全週間に合わせて啓発アナウンスを実施。適時、看護・介護部門職員へ公用車の車椅子固定方法やリフト車の操作方法の実技指導。

9月21日から30日の秋の交通安全週間に合わせて啓発アナウンスを実施。

③ 環境美化について

施設全体の環境美化に努め、利用者をはじめ来苑者が安心・安全、快適に過ごせる環境を提供する。

・きほう苑

令和4年度は愛苑デイを中心に清掃活動を行った。毎月の清掃は定期的に行えたが、清掃カ所を決めてなかったため、今後はどこかの清掃をどのようにするか決めて行いたい。

・きらら

令和4年度は、美化・環境整備活動の一環として、『環境ラウンド』を3回(7、11、12月)実施。継続的にラウンド活動ができるように、委員会内での業務分掌を進めていき、委員会活動の充実を図ることを次年度の課題としたい。

～ 防災委員会 きほう苑 1年間のまとめ ～

防災面で大きなトラブルもなく1年間入所者、デイサービス利用者、職員とも安心して過ごすことができたので良かったと思う。防災機器に関しても定期的な点検により早期の対応ができたので満足している。令和4年度も大雨や台風等による自然災害発生への恐れもあったが、早めの準備により災害発生にトならなかったため、今後も同様の対応を続けたい。

～ 防災委員会 きほう苑きらら 1年間のまとめ ～

新型コロナ禍にて、当初の計画通りには訓練ができなかったため、次年度は少人数での訓練を複数回実施することを検討していく。今後も感染状況の推移を見守りながら消防署や地域消防団との連携を図る機会設置を検討していきたい。

(9) 行事・広報 合同委員会

ホームページの毎月更新と法人広報紙の創刊及び年4回の定期発行を行い、利用者・家族・地域

の方に情報を発信し、施設等に対する理解を深めてもらうことを目指して活動したが、ホームページについては広報誌のみの更新しか出来なかった。また、法人の広報誌については、発行出来なかった。

① ホームページの更新

1 回(料金の更新)

12 回(きらら広報誌)

② 広報誌の発行

法人広報誌 0 回

きほう苑広報誌 4 回(6、10、1 月、3 月)

きらら広報誌 12 回(毎月)

～ 広報委員会 1 年間のまとめ ～

令和 4 年度は、1 度の法人誌創刊ができなかったものの苑の広報誌は写真を沢山撮影を行ったため、その都度発行した。次年度は広報誌をホームページの掲載が出来るよう実践したい。

(10) ユニットケア推進委員会

令和 4 年度は、①施設理念に基づいたケアを行う。(明るい笑顔と温かい言葉をモットーに住み慣れた地域で自分らしくいきいきとした暮らしを支援する) ②ユニットケア型介護施設の意義、理念を理解し全職員同じ方向をみたケアに繋がるよう活動を行う。を目標に掲げ、より一層のユニットケアの推進を図った。

～ ユニットケア推進委員会 1 年間のまとめ ～

職員不足で余裕がない中でも、職員同士でケアの価値観や意識の統一を図り、個別ケアの取り組みができたと思う。未達成であった取組みが実行に移せるよう、次年度の委員会活動を更に活性化させていく。